

## 大阪府石油コンビナート等防災本部訓練の概要 (令和2年1月17日実施)

### 【訓練の目的】

南海トラフ巨大地震発生時の災害対応活動中に、石油コンビナートにおいて、大規模災害が発生することを想定し、府庁の本部、現地本部(地元市等)と関係機関が連携した活動を図上訓練する。

### 【訓練日時】

令和2年1月17日(金) 14:15～15:45

(開始前に事前説明、終了後に評価者等による講評・コメント)

# 訓練体制

## <参加機関>

災害対策本部／石コン本部(危機管理センターA・B) 合計50～60名程度

(プレーヤー)府危機管理室、府薬務課(リエゾン)、府環境管理室(リエゾン)

(コントローラー)大阪府警察本部、大阪海上保安監部、

大阪市消防局(役)、消防庁(役)、一般住民(役) 等

市災害対策本部／石コン現地連絡所・現地本部(高石市役所) 合計30名程度

(プレーヤー)府危機管理室、府港湾局(電話)、泉州農と緑の総合事務所環境指導課、

高石市危機管理課、泉大津市危機管理課、

(コントローラー)堺市消防局(プレーヤー兼)、泉大津市消防本部(プレーヤー兼)、

堺海上保安署(プレーヤー兼)、高石警察署(プレーヤー兼)、

発災事業所

## <評価者>

消防庁特殊災害室

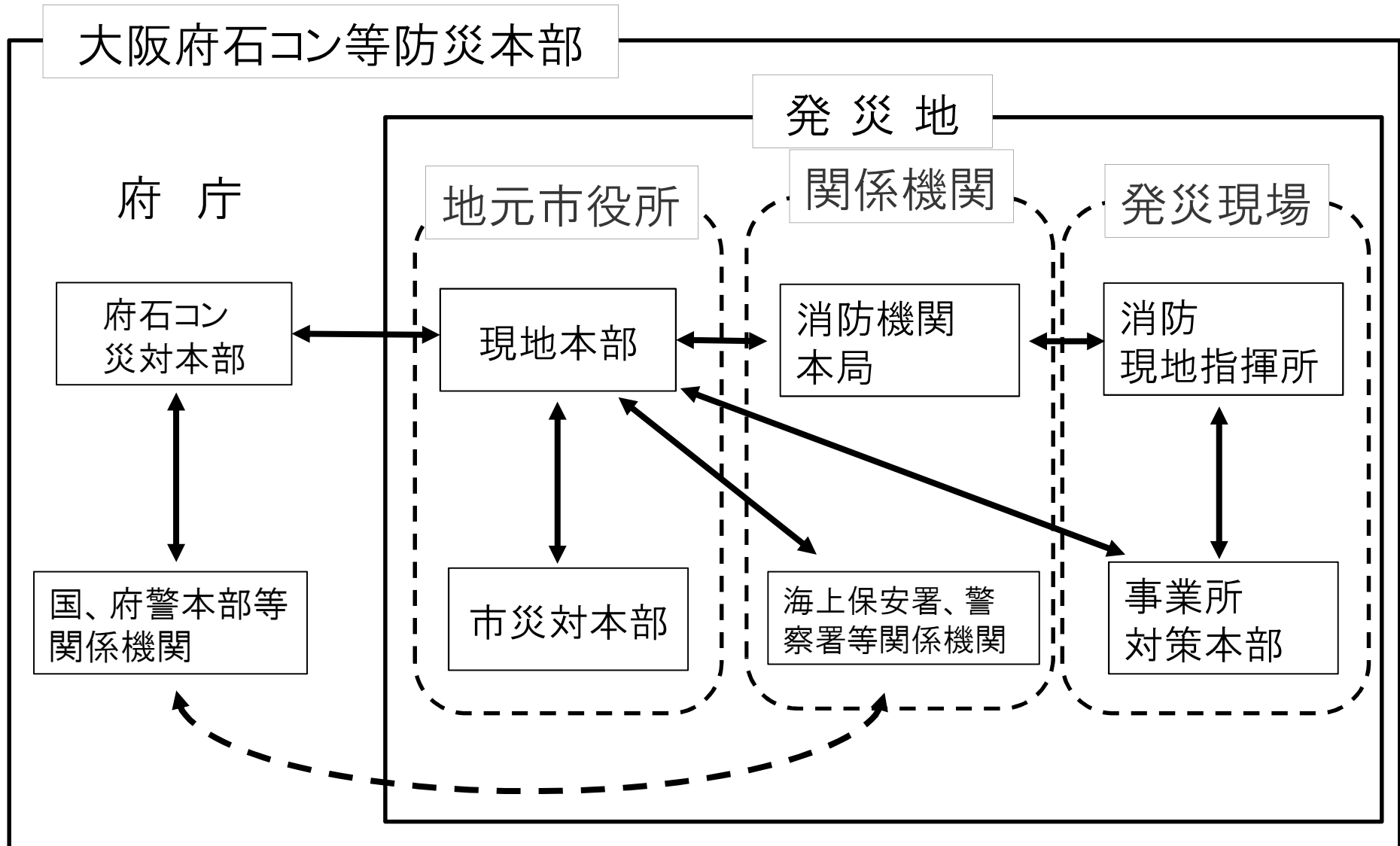
## <見学機関>

近畿地方整備局、大阪府警察本部、府港湾局、堺・泉北特別防災地区協議会事業所、

大阪府立環境農林水産総合研究所※、大阪大学大学院※

(※ (国研)国立環境研究所 災害・事故に起因する化学物質リスク研究課題参画)

# 石油コンビナート等防災本部の災害対応(情報の流れ)



# シナリオ概要

	A社 有害物質漏えい→火災。 タンク浮き屋根上の漏えい	C社 油の海上流出
14:15 ~15:00	<p><b>○余震により、大規模漏えいに発展。漏えい停止は困難。</b> <b>火災に発展するおそれ</b></p> <p>自衛消防が、検知管で敷地境界の濃度測定(約10ppm) 堺消(高石市依頼)が市街地臨海部の濃度測定(1~2 ppm)(府環境部局協力)</p> <p>大規模漏えいに関する広報の検討(以後継続)</p> <p>堺消が火災警戒区域を設定し、関係機関に通知</p> <p>関係課の助言を踏まえ、濃度に関する見解を確定</p>	<p><b>○棧橋付近からA重油が海上に流出。漏えい継続、漏えい量不明</b></p> <p>堺海上は現地確認 ⇒ 保安監部に速報</p> <p>海上火災のおそれ等、一般地域への影響を把握</p> <p>事業者は一次オイルフェンス展張。海上防災に二次オイルフェンスの展張、油回収を要請 ⇒活動開始</p> <p>漏えい防止措置(漏えい油の回収、土のう積み上げ等)</p> <p>本部は、港湾局に定置式オイルフェンスの展張要請</p> <p>海上漏えいに関する広報の検討(以後継続)</p>
15:00 ~15:45	<p><b>○火災に発展。長期継続の見込み、近隣タンクへの延焼のおそれ</b></p> <p>火災に関する新たな広報の検討</p> <p>火災の拡大に備えた住民避難の検討</p> <p><b>○タンク浮き屋根上に漏えい発見</b></p> <p>大容量泡消火ユニット派遣を広域共同防災組織に要請</p> <p>堺消は、泉大津消防への応援と緊援隊派遣を要請</p> <p>⇒本部は、消防庁調整 ⇒新潟県部隊派遣決定</p> <p>気分不良者の発生への対応。</p> <p>⇒有害物質(敷地境界約5ppm、市街地0.2~0.5ppm)やPM2.5の測定結果の評価、見解確定</p> <p>マスク配布の要請を受け、調整開始</p>	<p>海上共同防災組織が、二次オイルフェンスの展張完了</p> <p>港湾局が定置式オイルフェンスを展張</p> <p>堺海上は、航行制限措置の発令、現場での広報指示</p> <p>堺海上、港湾局、近畿地整等による調整会議の検討</p> <p>保安監部は、緊急物資輸送への影響、航行制限措置、連絡会議の調整状況について連絡</p>